

ユーザー各位

IJCAD 2019 バージョンアップ概要

2019年2月

インテリジャパン株式会社は、2019年2月1日に IJCAD 2019 をリリースいたしました。本資料では、IJCAD 2019 について前バージョンから新しくなった点をご案内いたします。

IJCAD 2019 での大きな変更点は以下の通りです。

IJCAD 2019 バージョンアップの要点

1. 互換性を向上させる基本機能の改良
2. 作業効率の向上に役立つ機能の追加と強化

目次

IJCAD 2019 バージョンアップの要点	1
作業効率を向上させる機能の追加と強化点	3
選択の循環に対応	3
右クリックアクションメニューに対応	4
外部参照のパス変更に対応 [EXTERNALREFERENCES]	5
非表示メッセージの設定に対応	6
テキスト入力時のスペルチェック機能に対応	7
ワークスペース [WORKSPACE] 機能に対応	8
新規レイアウトをタブから作成する機能に対応	10
オブジェクトスナップの連続選択に対応	10
透過性表示 ON/OFF ステータスバーのアイコンに対応	11
図面比較 [-CMP] コマンドで出力パス指定に対応	11
バックアップファイルの出力パス指定に対応 [MOVEBAK]	11
マイグレーションツール [IJMigrationTool]	12
ビューポート尺度 [VPSCALE] コマンドに対応	13
互換性を向上させる基本機能の改良	14
レイアウトをシートセットとして読み込みに対応	14
SHX フォントの更新	15
デザインセンター [ADCENTER] からのブロックの再定義に対応	15
グループ [GROUP] コマンドをリニューアル	16
ハッチング [HATCH] コマンド関連のシステム変数に対応	17
アプリケーションの互換性についての情報	18
開発言語の変更点	18
変更されたシステム変数	19
追加されたシステム変数	19
削除されたシステム変数	19
変更されたコマンド	19
追加されたコマンド	20

画面は開発中のものにつき、製品とは異なる場合があります。

次ページ以降、各見出しの右に表示されているカッコ内の表記は対象となる IJCAD のグレードです。

例：(LT/STD/PRO) … すべてのグレード、(STD/PRO) … LT 以外のグレード

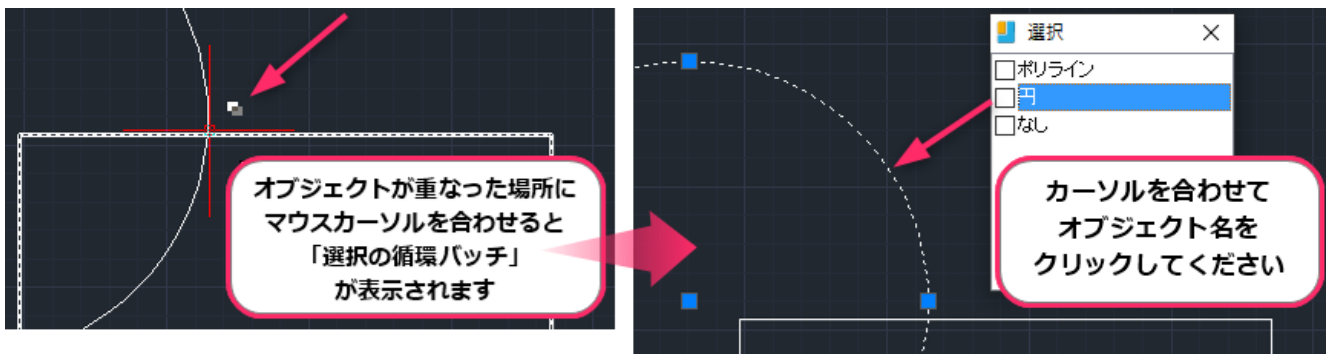
作業効率を向上させる機能の追加と強化点

IJCAD 2019 では、お客様より頂いたフィードバックなどを参考に、作図の作業性を向上させる様々な機能追加や既存機能の改良が施されています。これまで以上に使いやすく、便利になった機能の概要を本項目にて解説します。

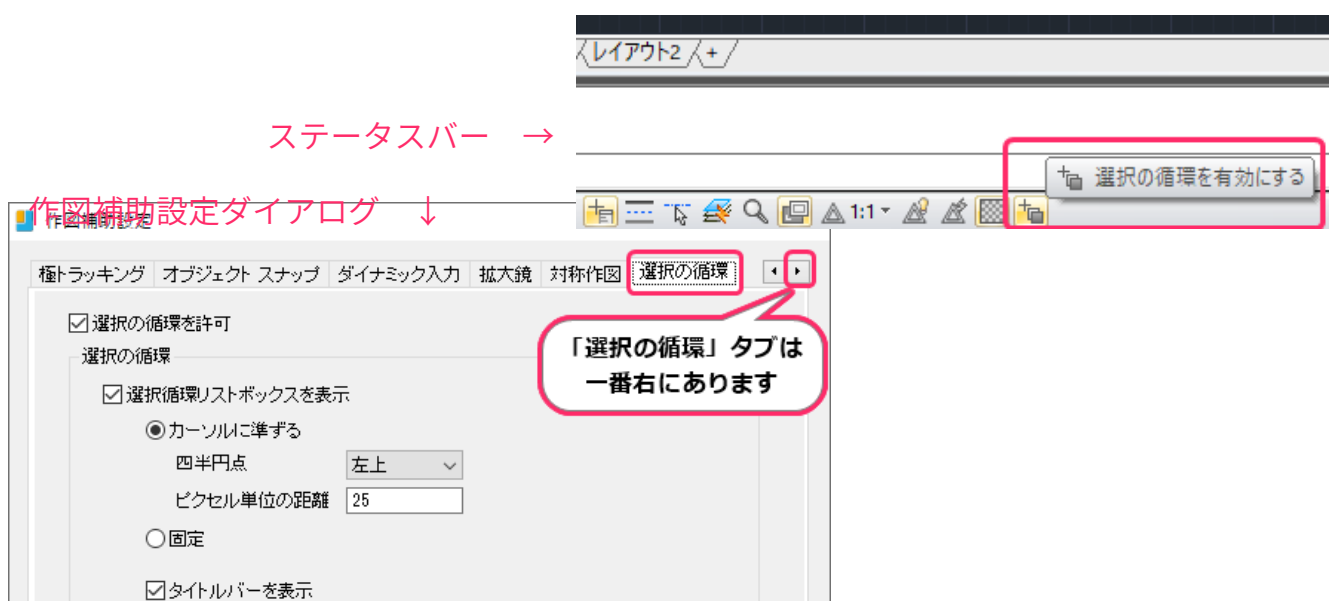
選択の循環に対応

(LT / STD / PRO)

オブジェクト重複部分にカーソルを合わせると、「選択の循環バッチ」が表示されます。この状態で左クリックを行うと選択可能なオブジェクトの一覧が表示され、複数の重なったオブジェクトから任意のオブジェクトを一つ選択できるようになります。



た。



選択の循環機能はステータスバーのアイコンで ON/OFF が切り替え可能です。
作図補助設定ダイアログ [DSETTINGS] コマンドでは動作の設定も可能です。

選択の循環機能の制限事項

※ 現在、「選択リストボックスを表示」を OFF にすると、選択の循環機能が動作しない不具合が確認されています。

選択の循環を使用する際は必ず、選択循環リストボックスを表示してください。

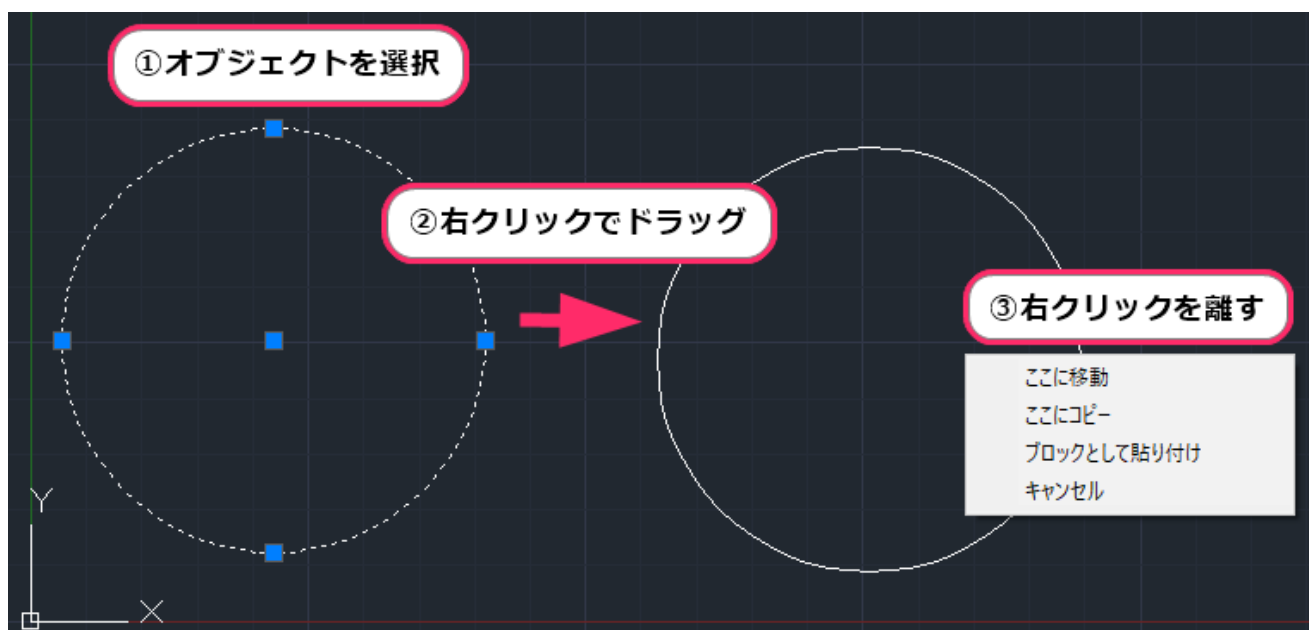
※ システム変数 [PICKSTYLE] が [1] の状態でグループ化したオブジェクトに対して選択の循環機能を使用した際に、グループ全体ではなく、指定したオブジェクトのみが選択されてしまう不具合が確認されています。

グループオブジェクトを扱う際には、選択の循環機能を OFF にしてください。

右クリックアクションメニューに対応

(LT / STD / PRO)

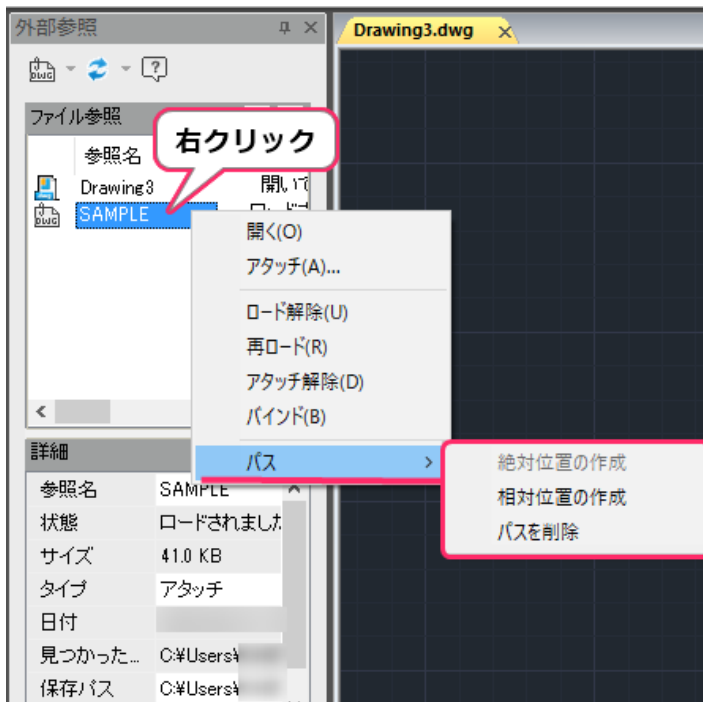
オブジェクトを選択した状態で、マウスで右クリックしながらドラッグ&ドロップを行った時に、「移動」「コピー」「ブロックとして貼り付け」のショートカットメニューが表示されるようになりました。



外部参照のパス変更に対応 [EXTERNALREFERENCES]

(LT / STD / PRO)

外部参照としてアタッチされているファイルの参照パスを「絶対パス」、「相対パス」、「パスなし」のいずれかに切り替えができるようになりました。外部参照パレットの外部参照名の上で右クリックし「パス」より選択してください。



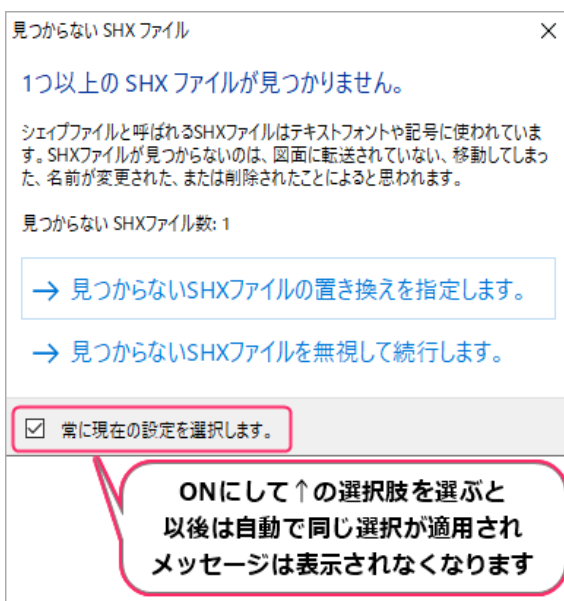
非表示メッセージの設定に対応

(LT / STD / PRO)

一定の条件で表示されるメッセージダイアログをその後表示するか指定する「常に現在の設定を選択します。」などのメッセージに同意した場合、次に同じ条件が発生してもメッセージダイアログは表示されないようになります。

このようなダイアログを再度表示できるようになりました。

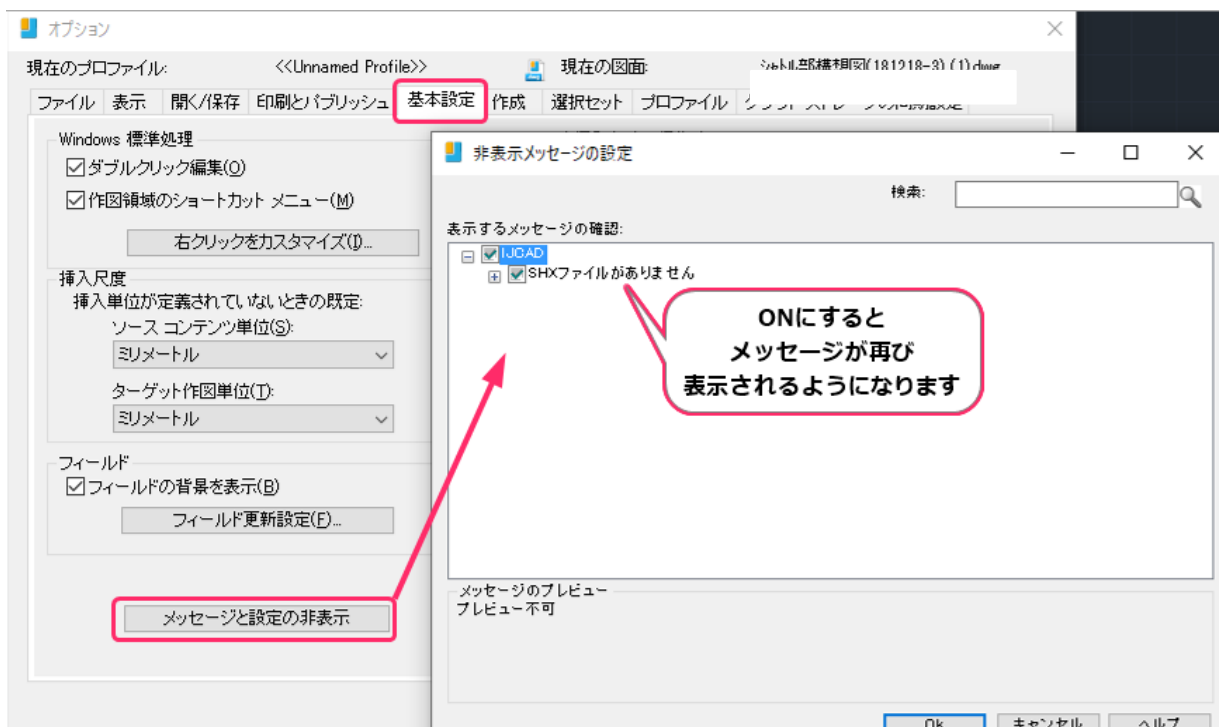
オプション [OPTIONS] ダイアログの「基本設定」より「メッセージと設定の非表示」を開いてください。



※現在、本機能が使用できるのは

以下の時に表示されるダイアログ 3 種です。

- SHX ファイルが見つからない時
- 外部参照が見つからない時
- 光源 [POINTLIGHT] コマンド実行時



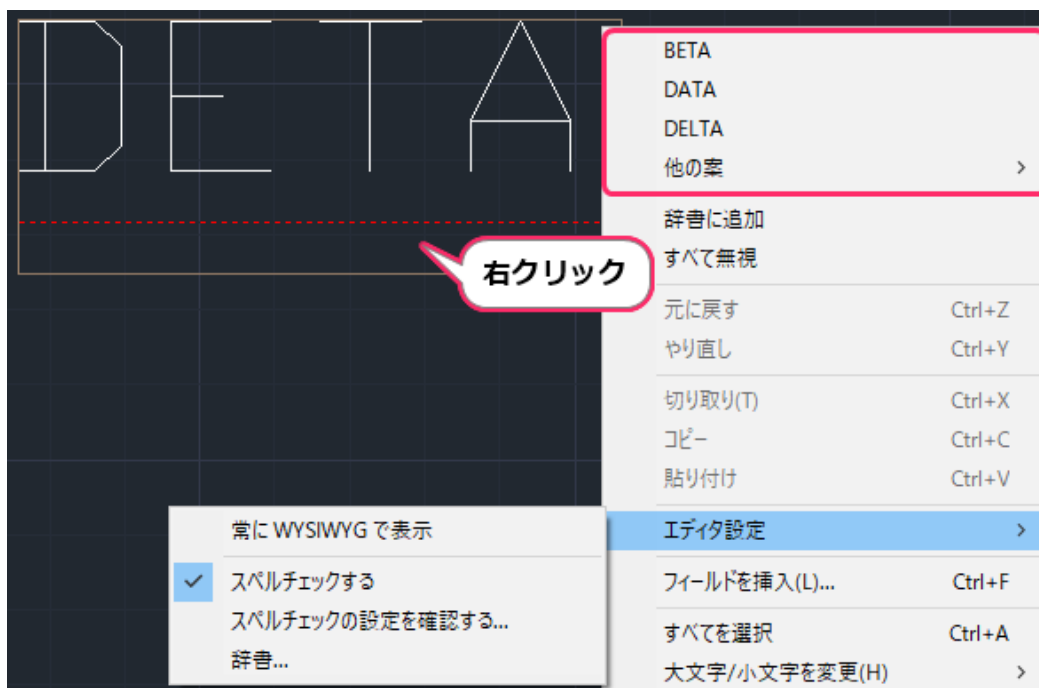
テキスト入力時のスペルチェック機能に対応

(LT / STD / PRO)

テキスト [TEXT] コマンドやマルチテキスト [MTEXT] コマンドで編集集中の文字に対してスペルの候補が存在する時、文字の下に赤色の点線が表示されます。

この状態で右クリックするとスペルの候補が表示され、選択することが可能です。

スペルチェック機能は右クリックメニューの「エディタ設定」内「スペルチェックする」にて ON/OFF の切り替えが可能です。



スペルチェック機能の制限事項

※ 右クリックメニューの「エディタ設定」内「スペルチェックの設定を確認する」機能が未実装であるため、スペルチェックの設定を行うことはできません。

ワークスペース [WORKSPACE] 機能に対応

(LT / STD / PRO)

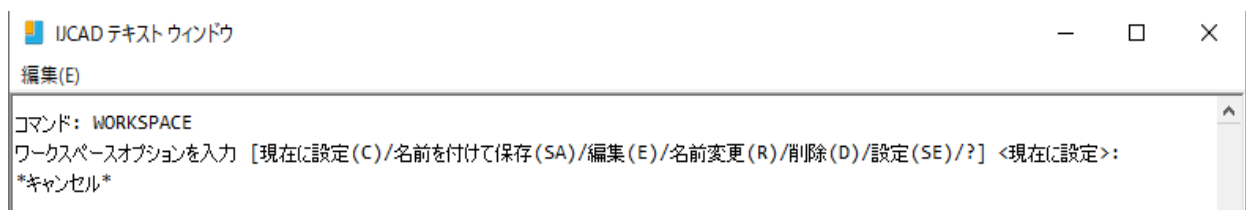
ワークスペース上でカスタマイズしていただいたツールバーの配置などを、別のパソコンの同バージョンの IJCAD へ移行することが可能になりました。



関連するコマンドは以下です。

- ワークスペース [WORKSPACE] コマンド

プロンプト形式で現在の表示状態をワークスペースとして保存したり、既存のワークスペースへの切替や編集などを行うことが可能です。



- ワークスペース保存 [WSSAVE] コマンド

現在使用しているワークスペースの状態を、新規としてまたは既存のものに上書きで保存することが可能です。

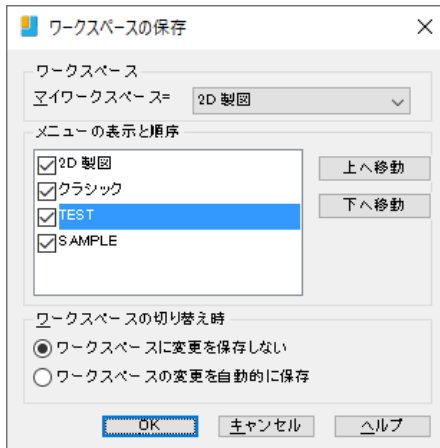
- ワークスペースを現在に設定 [WSCURRENT] コマンド

プロンプト形式でワークスペース名を入力して現在のワークスペースに設定することが可能です。

- ワークスペース設定 [WSSETTINGS] コマンド

ワークスペースのオプション設定のダイアログを表示します。

ワークスペース [WORKSPACE] コマンドの 設定(SE) オプションからも起動可能で



す。

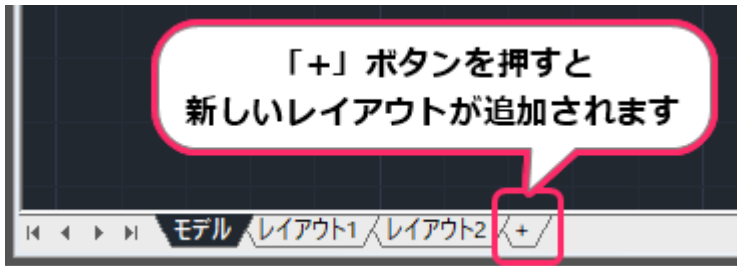
ワークスペース機能の制限事項

- ※ ワークスペース機能で移行できるのはツールバーのみで、移行元と同じバージョンの IJCAD のみ対象です。
- ※ ワークスペース機能で移行できるのはお客様が独自にカスタマイズされたもののみで、インストール時に用意されている「2D 製図」「クラシック」は移行することが出来ません。
「2D 製図」「クラシック」を移行したい場合は、別の名前のワークスペースとして保存し、以下のパスにある「gcad.cuix」を移行先の同じパスに配置してください。
C:\Users|(ユーザー名)|AppData\Roaming\IntelliJapan\IJCAD (グレード) |R19|ja-JP\Support
- ※ ワークスペースを削除して IJCAD を再起動した際に、消したはずのワークスペースが消えていない不具合が確認されています。ワークスペースの削除後にワークスペース保存 [WSSAVE] コマンドで任意のワークスペースを保存してください。
- ※ ワークスペース名を変更してもクイックアクセスツールバーなどに変更が反映されない不具合が確認されています。

新規レイアウトをタブから作成する機能に対応

(LT / STD / PRO)

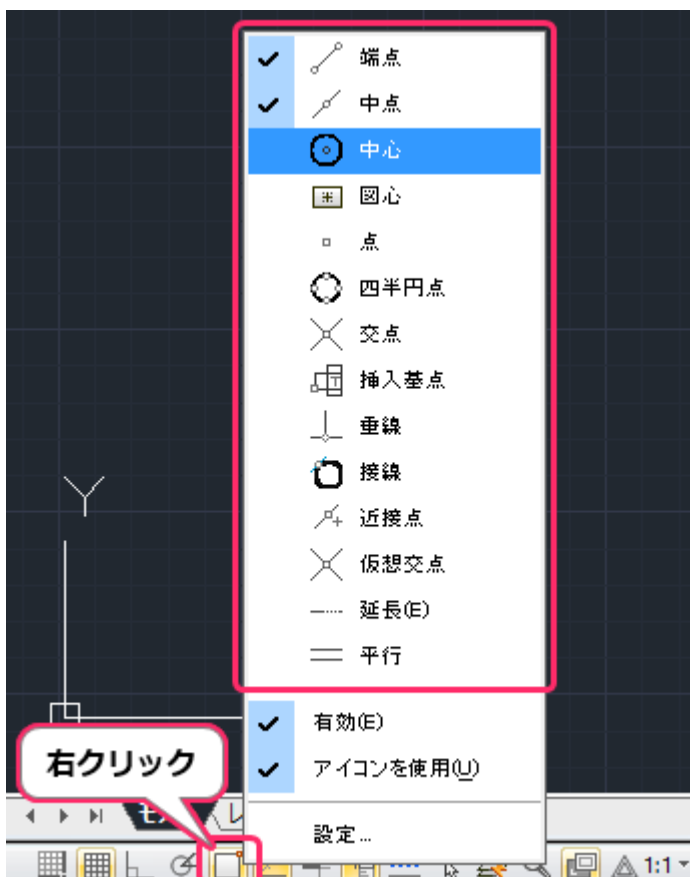
レイアウトタブの一番右に「+」ボタンが増えました。
このボタンを押すと新しいレイアウトが追加されます。



オブジェクトスナップの連続選択に対応

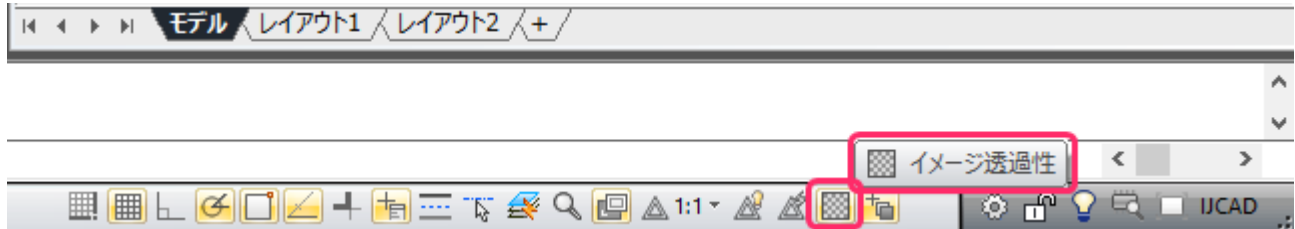
(LT / STD / PRO)

ステータスバーの「オブジェクト スナップ」アイコンの右クリックメニューを表示させたまま、使用したいスナップを連続して選択できるようになりました。



透過性表示 ON/OFF ステータスバーのアイコンに対応 (LT / STD / PRO)

オブジェクトに設定された透過性を作図領域上に反映させるか、ステータスバーのアイコンで選択できるようになりました。ON の時は透過性が表示に反映されます。



図面比較 [-CMP] コマンドで出力パス指定に対応 (STD / PRO)

図面比較 [-CMP] コマンドで比較結果の出力先をパス指定できるようになりました。

比較する 2 枚の図面のパスを指定した後、「結果パスを入力してください」と表示されますので出力先のパスを指定してください。

バックアップファイルの出力パス指定に対応 [MOVEBAK] (STD / PRO)

上書き保存するたびに作成される BAK ファイル の作成先を指定できるようになりました。

MOVEBAK コマンドを起動し、保存先フォルダのパスを指定してください。

パスの代わりに半角のピリオドを入力すると、既定値（開いている図面と同じ場所に作成）が指定されます。

CUI やテンプレート、プロファイル等のカスタマイズ情報の環境移行システムとして「マイグレーションツール」をお使いいただけるようになりました。

マイグレーションツールは IJCAD 2019 と一緒にインストールされます。

IJCAD のインストール方法やマイグレーションツールの操作マニュアルについては、別途ドキュメントにてご案内しておりますのでご覧ください。

IJCAD 2019 セットアップマニュアル.pdf

(http://files.ijcad.jp/files/public-docs/IJCAD_2019_セットアップマニュアル.pdf)

マイグレーションツール_マニュアル.pdf

(http://files.ijcad.jp/files/public-docs/マイグレーションツール_マニュアル.pdf)

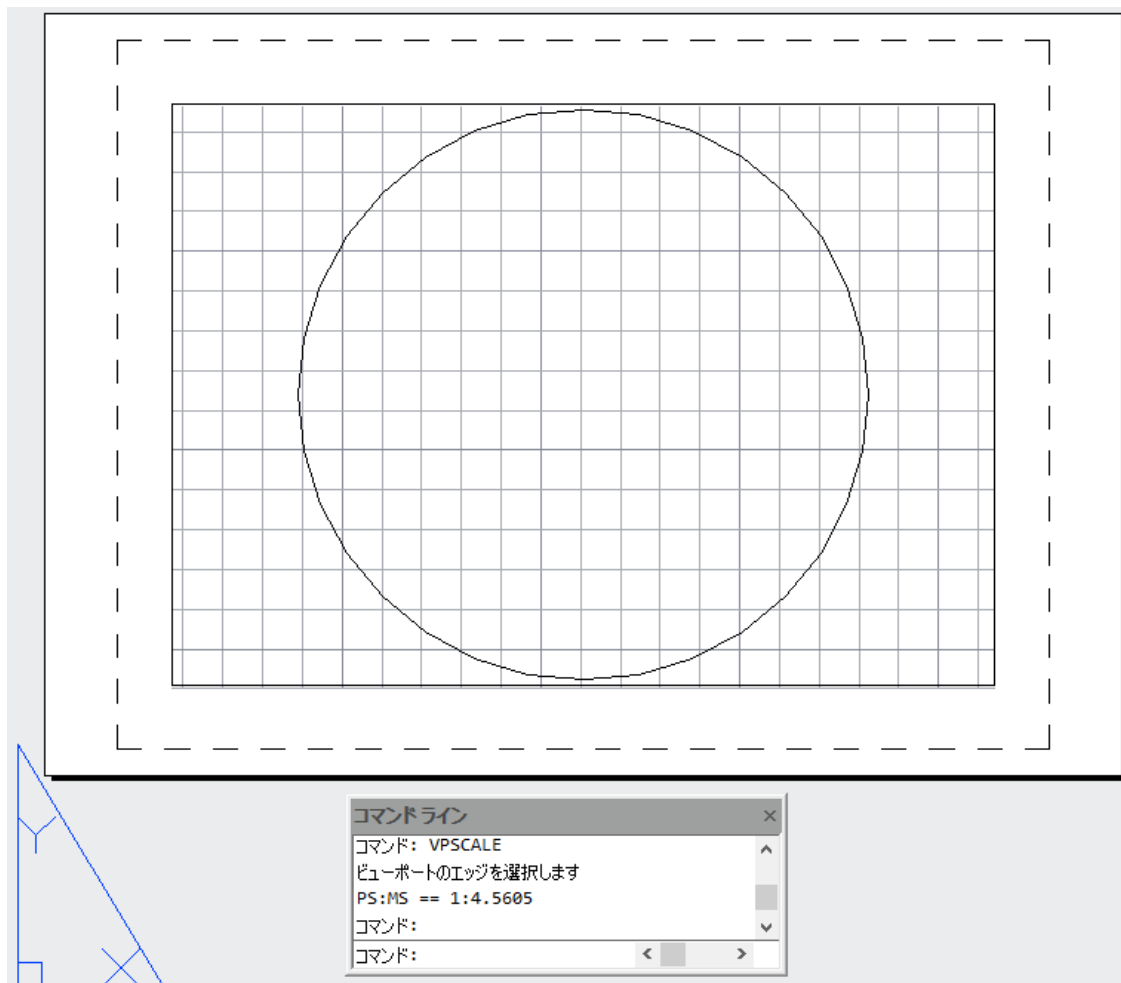
- ※ マイグレーションツールは「IJCAD 2019 セットアップマニュアル」をご確認後にご利用いただけますよう、お願いいたします。

ビューポート尺度 [VPSCALE] コマンドに対応

(LT / STD / PRO)

ビューポート尺度 [VPSCALE] コマンドを使用することで、現在のビューポートまたは選択したビューポートの尺度が図面単位ごとの方式により表示できるようになりました。

ビューポート尺度 [VPSCALE] コマンドはレイアウト上でのみ起動可能です。



ビューポート尺度は図面単位により、以下の方式で表示されます。

現在の単位が建築図面表記の場合、PS:MS == 1:96 Viewport Scale: 1/8" = 1'-0"

現在の単位が工業図面表記の場合、PS:MS == 1:96 Viewport Scale: 1" = 8'

その他の単位系の場合、PS:MS == 1:96

互換性を向上させる基本機能の改良

IJCAD 2019 は基本機能について、さらなる改良が施され AutoCAD からよりスムーズに移行していただける製品に仕上がっております。

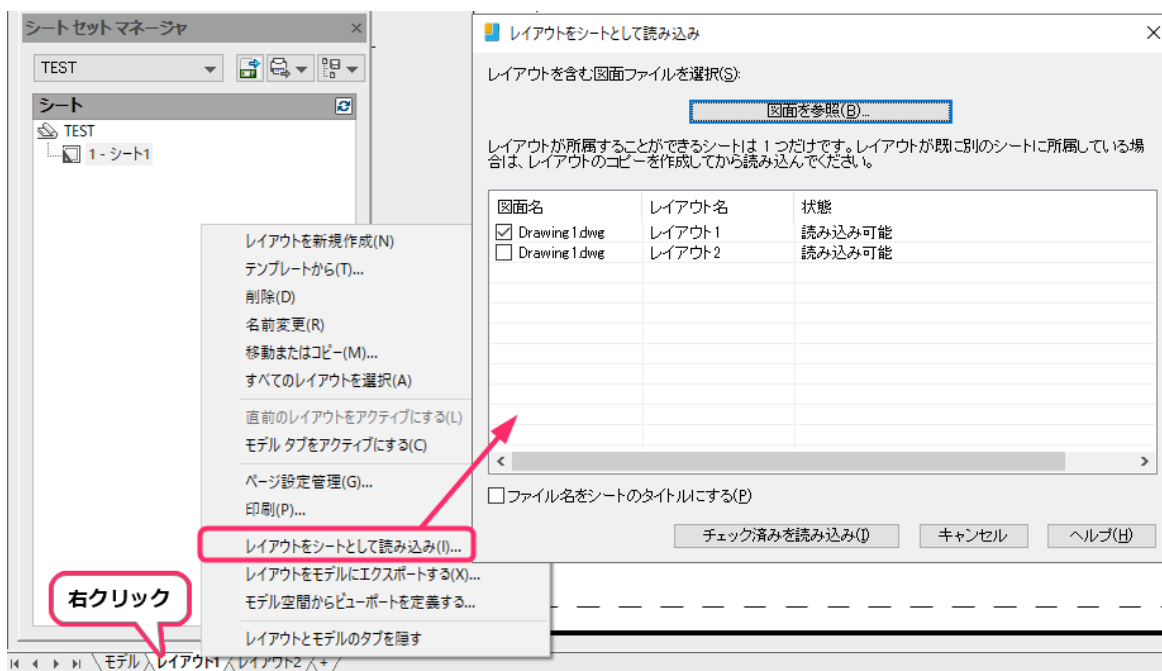
レイアウトをシートセットとして読み込みに対応

(LT / STD / PRO)

レイアウトタブの右クリックメニューから「レイアウトをシートとして読み込み」が行えるようになりました。

シートセットマネージャーでシートセットを開いている状態で、追加したいレイアウトタブの上で右クリックをして「レイアウトをシートとして読み込み」を選択してください。

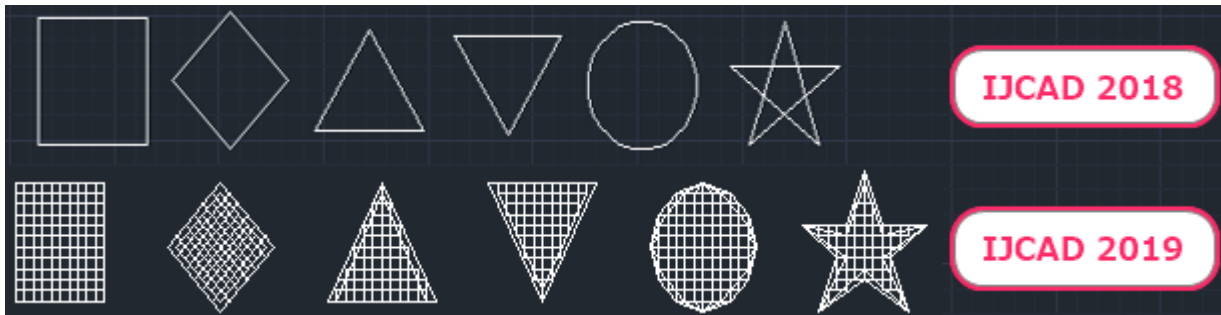
(追加するレイアウトは保存されている必要があります。)



SHX フォントの更新

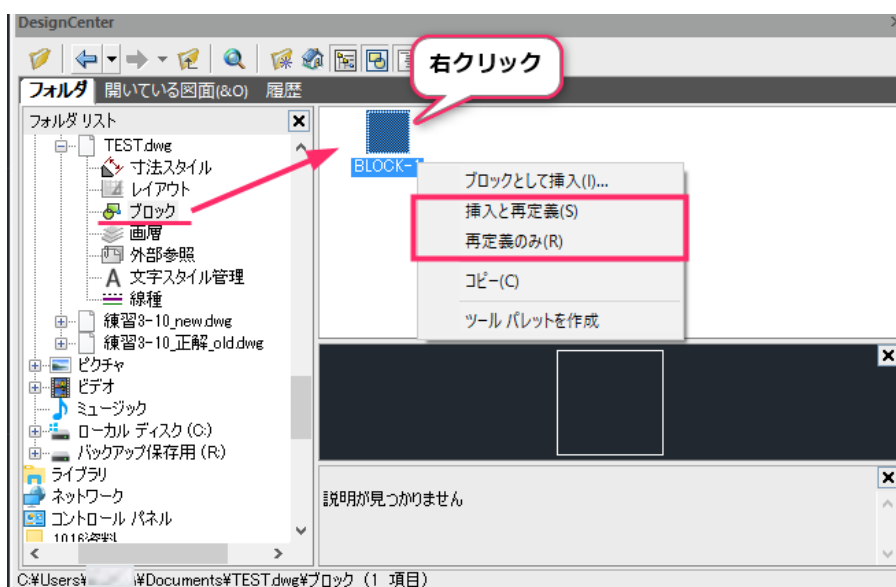
(LT / STD / PRO)

IJCAD 2018 までに搭載されていた extfont.shx と bigfont.shx は「●▲■」などの黒塗り記号の文字が白抜き状態で定義されており、白抜きの「○△□」と区別がつかない状態でしたが、本バージョンの extfont.shx と bigfont.shx ではこれが、黒塗りの状態で表示されるよう更新されました。



デザインセンター [ADCENTER] からのブロックの再定義に対応 (LT / STD / PRO)

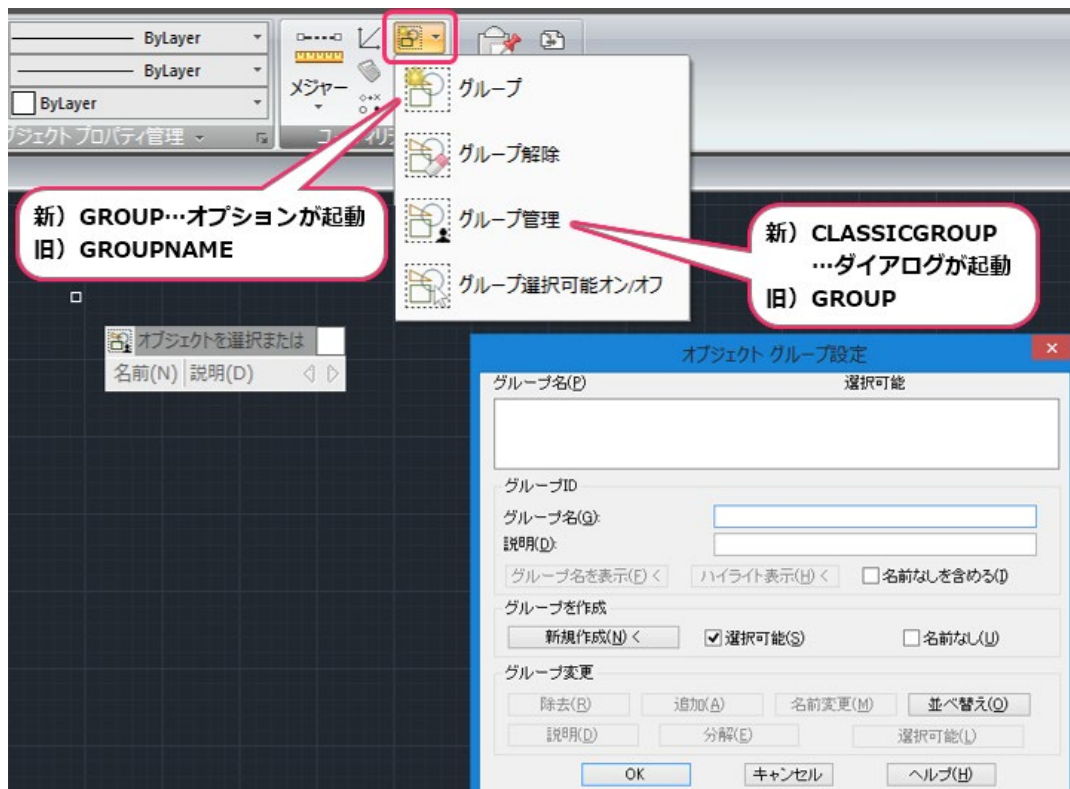
図面上のブロックに対して、デザインセンター [ADCENTER] コマンドからブロックの再定義や挿入が可能になりました。デザインセンターで、ブロック名を右クリックすると「挿入と再定義」「再定義のみ」が選択できます。



グループ [GROUP] コマンドをリニューアル

(LT / STD / PRO)

以前は GROUP コマンドで「オブジェクト グループ設定」ダイアログが起動していましたが、IJCAD 2019 よりオプションが起動するようになりました。



ハッチング [HATCH] コマンド関連のシステム変数に対応 (LT / STD / PRO)

以下のハッチング関連のシステム変数が実装されました。

- HPISLANDDETECTION

ハッチング境界の内側にある島の処理方法を指定します。

(島とは、ハッチングされる領域の内側に含まれる閉じた領域のことです。)

- HPPICKMODE

ハッチング領域の指定方法の既定を「領域の内側の点を選択」か「境界オブジェクトを選択」のどちらにするかを指定します。

アプリケーションの互換性についての情報

この項目ではカスタマイズや、アプリケーション開発についての注意点の概要を記載します。

開発言語の変更点

IJCAD の開発用 SDK は製品には付属していませんので、必要な方はお問い合わせください。

言語	変更の内容
DIESEL マクロ	変更はありません。
AutoLISP	変更はありません。
VBA	変更はありません。
.NET	ベース・バージョン：.NET Framework 4.5 以降 IJCAD 2014～2018 向けのプログラムは IJCAD 2019 の SDK での再コンパイルを推奨します。
GRX	ベース・バージョン： Microsoft Visual C++ 2010 (VisualStudio 2010) SP1 IJCAD 2014～2018 向けのプログラムは IJCAD 2019 の SDK での再コンパイルを推奨します。

なお、旧バージョンで確認されている各種の機能や API の問題について、改善されている場合があります。詳細については、その他の資料をご覧ください。

変更されたシステム変数

- SELECTIONCYCLING : 名前のみの実装から、動作する変数になりました。

追加されたシステム変数

- HPISLANDDETECTION : ハッチング境界の島の検出設定。
- HPPICKMODE : ハッチング領域の既定の選択方法を指定。

※以下は変数名のみ実装

- HPLASTPATTERN : 最後に使用したハッチング パターンを記録。
- HPLAYER : 新規に作成されるハッチングと塗り潰しの既定画層を指定。
「現在を使用（ピリオド“.”を入力）」以外の値が指定された場合、
その時の「現在の画層（CLAYER）」よりも優先される。
- HPLINETYPE : ハッチング パターンの線種の表示方法を設定。（実線以外）
- HPORIGINSTOREASDEFAULT : ユーザー定義のハッチングの原点設定。
- HPRELATIVEEPS : ペーパー空間に対するハッチング パターンのスケール設定。

削除されたシステム変数

- HPSTYLE : ハッチング境界の島検出設定。
今回追加されたシステム変数 [HPISLANDDETECTION] に変更されました。

変更されたコマンド

- GROUP : 新しいグループコマンドになり、旧バージョンのグループコマンドは
CLASSICGROUP コマンドに変更になりました。

追加されたコマンド

- CLASSICGROUP : グループ管理。
- EDITTABLECELL : セル編集。
- EXPORTDWFx : DWFx 書き出し。
- MOVEBAK : バックアップファイルパス。
- VPSCALE : ビューポート尺度。
- WORKSPACE : ワークスペース。
- WSCURRENT : ワークスペースを現在に設定。
- WSSAVE : ワークスペース保存。
- -WSSAVE : ワークスペース保存。
- WSSETTINGS : ワークスペース設定。

<IJCAD に関するお問い合わせ窓口>**システムメトリックス株式会社**

ウェブ : <https://www.ijcad.jp/>

電話 : 名古屋 (本社) : 052-219-8831 / 東京 : 03-3537-3282 / 神戸 : 078-599-8425